

P3-45-4 当院の高年初産婦における年齢が分娩所要時間, 出血量, 妊娠合併症に与える影響についての検討

日本赤十字社医療センター

宮村知弥, 津村志穂, 笠井靖代, 木戸道子, 宮内彰人, 安藤一道

【目的】晩婚化などのライフスタイルの変化や生殖医療の発達に伴い高年妊娠が増加している。年齢が自然経膣分娩に与える影響について検討した。【方法】2012年1月から2014年12月の当院での初産婦の自然経膣分娩3349例のうち多胎, 早産, 誘発・促進例を除外し, 35歳未満(以下A群), 35歳以上42歳以下(以下B群), 43歳以上(以下C群)の3群に分類し, 分娩所要時間, 分娩時出血量について診療録を用いて後方視的に比較検討した。【成績】A群は1384人(69.7%), B群は576人(29.0%), C群は25人(1.3%)であった。A群, B群, C群の平均分娩所要時間, 平均出血量はそれぞれ 646 ± 38 分, 618 ± 39 分, 680 ± 40 分, 449 ± 310 ml, 475 ± 309 ml, 470 ± 205 mlであった。3群間において分娩所要時間に有意差はなかった。A群とB群の間ではB群の方が有意に分娩時出血量が多かった($p < 0.05$)。【結論】本検討では多胎, 早産を除いた初産婦における誘発, 促進を行わずに自然分娩に至る例では, 年齢間での分娩時間, 出血量の有意な差は認めなかった。

24日(日)
一般演題

P3-45-5 当院における高齢出産についての検討

大阪労災病院

八木茉莉, 八木一暢, 奥野幸一郎, 白石真理子, 直居裕和, 栗谷健太郎, 渡辺正洋, 尾崎公章, 志岐保彦

【目的】日本で周産期統計が開始されてから, 分娩平均年齢は上り続けている。原因は女性の結婚年齢の上昇や生殖補助医療の発達と考えられる。当院でも増加し続けている高齢妊娠に際して, 我々産婦人科医が注意すべき点は何であることを検討した。【方法】2012年4月から2015年3月に当院で分娩した初産婦単胎643例を対象とした。総分娩数は1169例のうち2例は双胎であったため除外した。34歳以下(A群)・35歳以上(B群)の2群に分け, Fischer直接確率法により検定した。【成績】A群は442例(68.7%), B群は201例(31.3%)であった。初産婦の割合はそれぞれA群で62.3%, B群で45.7%であった。B群がA群より発症率が有意に高かった項目は, 以下の如くであった。妊娠に至る経過について(A群 vs B群), 生殖補助医療率(12.4% vs 34.8%)・体外受精率(3.4% vs 19.4%)であった。妊娠・分娩経過に関して, 妊娠糖尿病発症率(0.7% vs 5.0%)・妊娠高血圧症候群発症率(1.8% vs 5.0%)・分娩誘発施行率(11.3% vs 20.9%)・帝王切開分娩率(15.1% vs 20.9%)であった。【結論】高齢初産婦は妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群の発症率が高く, 誘発率や帝王切開率が有意に高かった。このため, 高齢妊婦に関しては日常診療における積極的な介入が肝要である。

P3-45-6 母乳育児の成否に関する要因についての検討

諏訪中央病院

青山和史, 南川浩彦, 吉澤 徹

【目的】母乳育児は母子双方にとって有益である。世界保健機関や国連児童基金は20年以上前から母乳育児の推進, 支援を行っている。今回, 母乳育児の成否に関する要因について後方視的に検討した。【方法】対象は2014年3月から2015年7月までに当院で経膣分娩した337例である。帝王切開症例, 37週未満の早産は除外した。産後1か月健診時に母乳のみを与えている症例を母乳育児成功とし, ミルクなどを足したり与えたりしている場合はすべて母乳育児不成功とした。母乳育児の成否に関する因子として母体高齢(35歳以上), 初経産, 器械分娩(吸引または鉗子)の有無, 会陰切開の有無を検討した。ロジスティック回帰モデルを用いた多変量解析を行い, 検定の有意水準は5%未満とした。【成績】対象における母体年齢の中央値31歳(18-45), 在胎週数の中央値39週5日(37週0日-42週2日)であった。症例内訳は初産婦152例(45.1%), 器械分娩36例(10.7%), 会陰切開77例(22.8%)であった。1か月健診時の母乳育児成功は268例(79.5%)であった。多変量解析の結果, 母体高齢で母乳育児成功率が有意に低下した(オッズ比OR 0.498, 95%信頼区間0.278-0.894)。分娩歴の有無, 器械分娩の有無, 会陰切開の有無と母乳育児成功との間には統計上, 有意差はみられなかった。【結論】母体高齢は母乳育児に有意に不利である。分娩歴, 器械分娩, 会陰切開のそれぞれの有無は母乳育児に対して影響を与えているとは言えない。